

## 地域のボランティア活動と地域発展の連携

### —太原市国際マラソン大会例

趙経超

#### 1. 太原市国際マラソンの紹介

太原市国際マラソン大会は国家体育总局および太原市当局が公認するマラソンの国際大会である。太原市の最大の国際スポーツイベントだけでなく、全国マラソンポイントレースで1局である。

大会は2010年に第一回を開き、次は毎年1回、試合時間は大体毎年の九月最初の日曜日。コースが広くて走りやすく、気候的（湿度、温度）にもちょうど良い時期です。また組織レベルや大会レベルも高く、太原市民の支持も得ており、大会の規模はだんだんと大きくなってきている。世界各地からの優秀な選手及びマラソンファンがこのイベントに参加している。

試合を分ける：男子フルマラソン、女子フルマラソン、男子ハーフマラソン、女子ハーフマラソンとミニマラソン5項。（男女フルは42.195 km、男女ハーフは21.0975 km、ミニマラソンは4.2195 km）

マラソンのルート：国際石炭センタ、長風橋、勝利橋、迎沢橋、南内橋、長風商務区、南中環橋、ゴールは山西省体育センタ。

#### 2. 自分の体験と感想

私は2012年（第三回）と2013年（第四回）に太原市国際マラソン大会のボランティア活動を参加した。第三回マラソン大会のテーマは「激情マラソン 幸福太原城」。その時私と友達一緒に参加して、すごく感動した。ボランティアの募集から、マラソン大会終わるまで私たち経験した。

連続二年に二回を参加して、一番記憶深いのは第三回に比べると、第四回の参加者は人数が多くって、年齢層も広くになった。

太原市政府も近年に前より注視する。「全民運動」の政策を打ち出した。第三回の時、子供たちと老人たちの人数が少なかった。しかし、第四回は参加率が上回った。参加選手はもっと国際化になった。サービス水準も上昇した。ボランティアいつも笑顔をする、丁寧な言葉をつける。大会に必要な施設も完備になった。漏れやすいところも看板を用意した。観客たちの熱情も盛り上がる。最後まで自分の力を出して、選手を応援する。

自分のボランティアの経験を通じて、太原市は各方面で実質的な発展した。市民はもっと幸せな生活を過ごしできた。

ボランティアとしての私は体を鍛える必要性が意識したうえで、運動を積極的に参加した。または、全国の範囲に運動の重要性を宣伝し、市民運動への関心を少しだけ貢献したい。

### 3.影響

ボランティア活動は地域の経済とか政治とかさまざまな面での発展を促進する。太原市国際マラソン大会は近年に益々レベルが高くなって、国家政府から様々な政策を打ち出した。マラソン大会は近年に観光景観になった。太原市に来るひとたちは大会の参加者だけではない、観光者も多い。

ボランティア活動は太原市の経済発展に力を入れる。大会の影響で太原市の基礎施設、公共サービス施設が完備になって、住みやすい町も相次ぎに建設されている。市民の健康意識が強くなったうえに、自分の健康管理も重視した、散歩する市民がよく見える。

大会の影響によって、市民は環境問題への関心が高まったことと、環境保護意識が高くなったことがわかる。市民の環境保全意識、環境保全行動実施状況等が改善した。大会は太原市のスポーツ人口の増大、施設の整備・選手強化、サービスの改善など、体育・スポーツの普及・振興に大きく貢献してきた。とくに、学校の教育に文化だけ強調しない、学生の総合素質の養成を重視する。

今までの活動は国家にいい影響がある。もちろん、ボランティア活動はスポーツだけじゃなくて、地震、火事等の災害が行った時にも、これらの活動も必要だと思う。